

セメント協会標準試験方法 JCAS I -61:2008
フライアッシュのメチレンブルー吸着量試験方法の改正

本試験方法は 1986 年に制定され、1995 年の増刷版を経て今回の改正に至った。
主な改正点は以下のとおりである。

(1)メチレンブルー吸着量が著しく多い試料の試験方法

1995 年版では「メチレンブルー吸着量が著しく多い試料は、試料の量り採り量を適当に減らす。」と規定されていた。今回の改正では、試料量は一定とし、吸着後の試料溶液のメチレンブルー濃度が 0.5mg/L 未満となった場合はメチレンブルー溶液量を順次 50mL、75mL のように 25mL ずつ増やして、再度、試験を行うことを規定した。

(2)ブランク試験

試験に用いるガラス器具およびろ過材にメチレンブルーが吸着すると、メチレンブルー吸着量に正の誤差を与えるため、ブランク試験による補正を行うことを追加した。

(3)ろ過材

1995 年版では、ろ過材としてガラス繊維ろ紙を規定していたが、新たにメンブレンフィルターの使用を加えた。

(4)吸収セルの洗浄

吸光度計の測定に使用する吸収セルにもメチレンブルーが吸着する。吸収セルの洗浄が足りない場合、これが次の試料溶液の測定に影響するため、吸収セルの洗浄後に吸光度を確認することを注として加えた。

以上